

## ●人権教育●

# ソーシャルネットワーク社会における 人権教育のあり方及びその実践的研究

長野県 佐久市立中込中学校（校長 海野善弘）

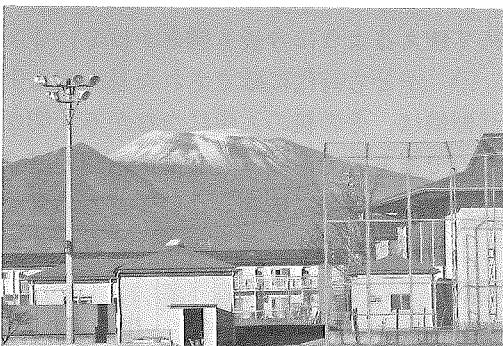
- ① [Saku Kids メディア Safety]（佐久市連合PTAから立ち上げた組織）の活動と  
タイアップしたメディアに関するアンケート調査を行った。
- ② 文化祭で「携帯電話は中学生に必要か」「便利な中でのリスク」の  
意見文を聞いた後、全校で意見交換を行った。
- ③ 「メディアに関するアンケート」や「全国学力調査の結果」をもとに  
生徒集会を開き、相手意識をもったメディアの使い方について考えた。
- ④ PTA講演会で「ネット社会が我々に与える影響」について聞き、  
親子でメディアとのつきあい方について考える機会をもった。
- ⑤ 生徒会が主体となって「メディア週間・ノーメディアデー」を  
全校に呼びかけ、実施した。

佐久市は、県歌「信濃の国」にも歌われる佐久平の中心に位置する人口約10万人の中核都市である。現在の佐久市は、平成17年に旧佐久市、白田町、望月町、浅科村が合併し誕生した。

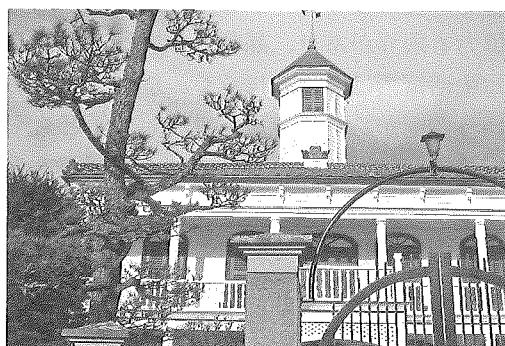
東は妙義荒船佐久高原国定公園、北に国際的避暑地である軽井沢や浅間山、南に八ヶ岳中信高原国定公園に囲まれた、美し

く自然豊かな地である。また、市の中心には千曲川が貫流し、その清流は名品「佐久鯉」を産するとともに、市内13箇所にある酒蔵にて数々の銘酒が醸造され、全国に送られている。

本校が在る地域は、大きく中込地区、平賀地区、内山地区からなり、明治初期には旧中込学校（現存する日本最古の擬西洋建



◆ 浅間山を望む



◆ 旧中込学校

築) が地元住民の寄付により建設されるなど、古くから教育熱心な土地柄である。

### [はじめに]

#### 【本校の概要】

本校は佐久市の南東に位置し、千曲川の支流である滑津川の横に立つ、全校396名が在籍する学校である。古くは昭和22年の学制改革で、三町村に内山中学校、平賀中学校、中込中学校が誕生し、昭和30年に三中学校は組合立として統合。翌年、組合立から中込町立中込中学校となった。

その後、昭和36年4月、佐久市の誕生とともに佐久市立中込中学校とかわり、今日に至っている。

## I 研究の概要

### 1. 学校教育目標と目指す姿

#### 【学校教育目標】

笑顔があふれ  
学びと活動のある学校

笑顔…他者とのよりよい関係性の構築  
学び…生きる力となる確かな学力  
活動…目標を持った主体的活動  
本校では、この目標の具現に向けて、日々実践を行っている。そして、「目指す生徒の姿」として、

- ・ 学ぶことの意味や楽しさを実感する生徒
- ・ 自他の大切さに気づき、思いやりのある生徒

を掲げ、様々な活動に取り組んできた。授業においては、「基礎・基本の定着」と「生徒の学びを主体としたわかる授業」の具現に向け、教職員が教科の枠を越えて

グループを作り、互いに授業を見合い、授業改善に取り組んでいる。

また、学友会（本校では生徒会をこう呼ぶ）活動では、できるだけ生徒が前面に立ち、教師は黒子に徹して後ろから生徒を支援することで、生徒が自らの力で物事をやり遂げる達成感や充実感を実感することができ、このことが学校全体の大きなエネルギーとなっている。

### 2. 主題設定の理由

これまで、上記のような取り組みを行ってきたことで、多くの生徒が学校生活を楽しみ、充実した生活を送っている。

昨年度実施した学校評価アンケートでは、「学校が楽しいですか」の質問に対し、ほぼ9割の生徒が、「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えている。

反面、集団に入ることができない生徒や、他者と適切にコミュニケーションをとることを苦手とする生徒が増加している傾向にあることもわかった。

そんな中、平成27年度全国学力・学習状況調査においては、スマホをはじめとするメディア機器を長時間使用している時間が、県、全国平均に比べて高いという傾向があることもわかった。

#### 〔普段、テレビやビデオに費やす時間〕

	4時間以上	3~4時間	2~3時間
本校	20.0%	20.8%	25.8%
県	14.5%	16.1%	26.0%
全国	15.0%	15.5%	25.2%

(平成27年度全国学力学習状況調査  
・生徒質問紙より)

昨年度11月に行つたいじめアンケートでは、仲間外しや悪口、暴力など、直接的ないじめはなかったものの、「グループラインで悪口を書かれた」「LINEの仲間から〇〇さんをはずそうと送られてきた」など、ネット上でのトラブルが見受けられた。

また、本校でも「ネット上に個人情報を投稿してしまう」「LINEで知り合った

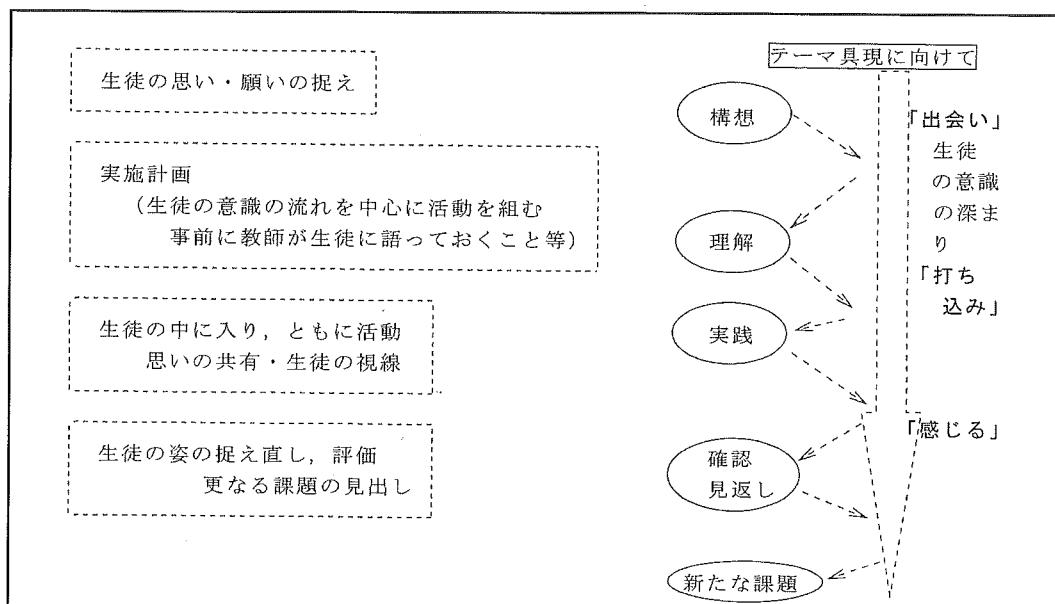
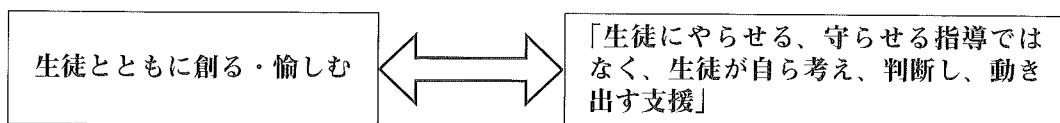
人に画像を送ってしまう」といった生徒指導上の問題も発生している。

以上のことから、今後ますます発展するであろうネット社会で生きていく生徒が、自らの生活を自分自身で考え、他者と適切に関わりながら、よりよく生活していくとする力を伸ばしていかれることを願い、本研究主題を設定した。

## II 研究の内容

### 1. 研究推進構想

#### 【基本コンセプト】



#### 【推進計画】

〔5月〕 「SAKU Kids メディア Safty」からのメディアアンケートの実施  
結果を全校生徒に知らせるとともに、学友会役員会で討議。

〔6月〕 全校生徒集会にてアンケート結果について意見交換

〔7月〕 国語科による意見文指導  
・メディアをテーマに記述する場合の項

目立て、資料の扱い方等について具体的に指導する。

[9月] 「文化祭意見文発表の時間」で、メディアをテーマとした意見文を聞き、意見交換を行う。

[10月] 後期人権教育月間

- ・「スマホによるいじめ」「ネットトラブル」等の授業を行う。
- ・SOS郵便（いじめアンケート）の実施
- ・生徒集会にてメディアの使い方等に関する意見交換を行う。

[11月] P T A 人権教育講演会の実施

学友会主催による「テスト前ノーメディアデー」の実施

[12月] 保護者アンケート・生徒アンケートの実施

[2月] 第2回ノーメディアデーの実施

[3月] 振り返り・まとめ

## 2. 研究の実際

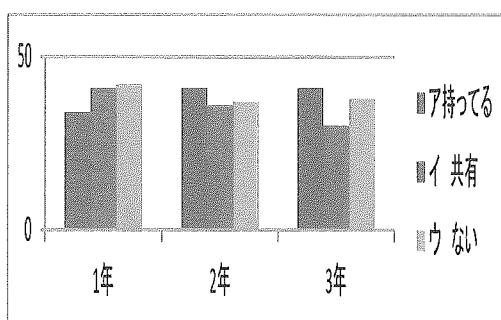
### (1) メディア機器に関するアンケート調査の実施

佐久市では、連合P T A会議の中で、子どもがメディアに費やす時間の多さやネットでのトラブルが話題になった。これらの問題は、学校だけに任せのではなく、保護者・地域・学校、そして何より児童生徒が主体となって向き合い、市民全体で考えていくことが大切ということで、連合P T A役員が中心となり「SAKU KidsメディアSafety」(以下 SAKUKids) を立ち上げた。

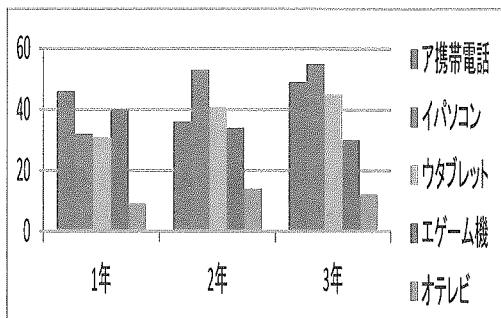
今年度本校では、このSAKUKidsの活動と連携して取り組むことで、地域・学校・生徒が一体となった活動になるのではないかと考えた。5月にSAKUKidsが行ったアンケート調査に参加し、生徒とメディアとの関わりについて実態を把握した。

### 【主なアンケート結果】

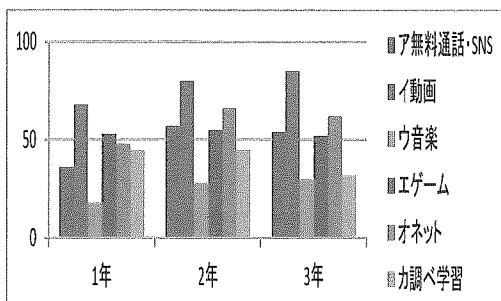
#### ① 自分が使える携帯持ってる？



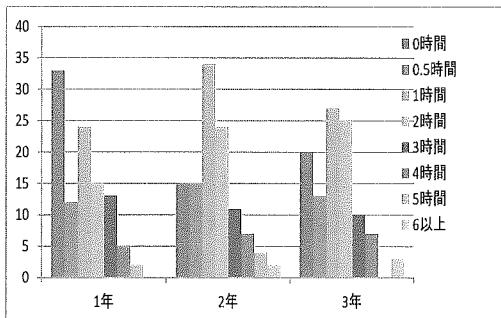
#### ② ネットへの接続方法は？



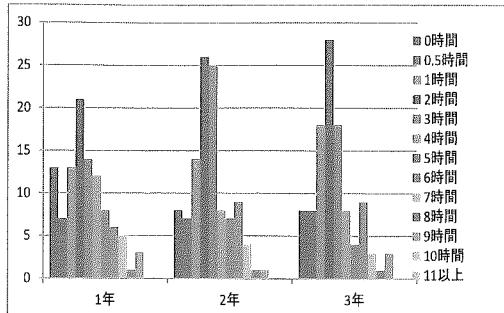
#### ③ ネットでよく利用するものは？



#### ④ 電子メディアの使用時間（平日）



## ⑤ 電子メディアの使用時間（休日）



### 【調査結果から】

本校生徒は、①の結果から約30%が自分で使える携帯を持っていることがわかる。また、学年による数値の差がほとんどないことから、小学校時代、もしくは中学入学時に既に所持しているものと思われる。

③よりネット接続の目的で一番多いのが「動画視聴」である。ほとんどの生徒は時間を決めたり保護者とのルールを作ったりして適切に使用しているが、中には夜中までスマホを使用し、体調不良を訴える生徒も少なからず見受けられる。

④では、平日の電子機器使用時間が4時間以上、同じく⑤では、休日においては8時間以上使用している生徒が、少数ではあるがいることも問題であると考える。

## (2) メディア講演会の実施（1学年）

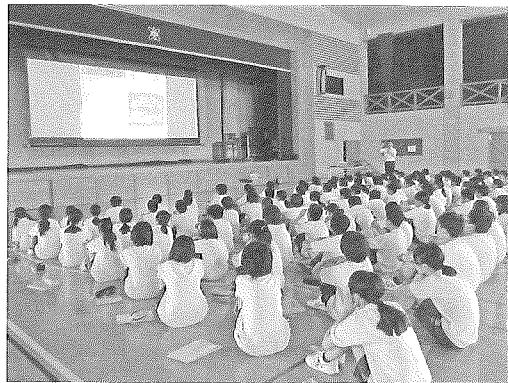
中学入学時に既にスマホ等を持っている生徒が増えていること、小学校時にグループラインでのトラブルの報告もあったことから、1年生対象のメディア講演会を行い、メディアの上手な使い方について考えた。

期日：平成28年7月19日（火）

講師：佐久市教育委員会

主幹指導主事：松島恒志先生

演題「メディアとの上手な付き合い方」



◆ 講演会の様子（1学年）

松島先生からは、スマートフォンやタブレット端末の使い方、インターネット上における個人情報の扱い方等についてお話をいただいた。また、癌に犯された自分の命と引き替えに子どもを出産したある母親のドキュメンタリー番組を視聴し、命の大切さについて考えるとともに、スマホ画面の先には、命を持ち血のかよった「ひと」が存在していることを常に意識して使用することの大切さについてお話をいただいた。

### 【生徒の感想】――

○ 講演会を聞いて、いつも普通に使っているスマホやタブレットは、すごく楽しいけれど「怖い」ということがわかりました。犯罪や事件に巻き込まれることもあるかも知れないので、よく考えてからクリックするようにしたいです。また、松島先生は「ゲーム依存症」になることもあると言っていたので、しっかりと時間を決めてやるようにしたいです。

○ LINEでは文字だけのやり取りなので、言葉に気をつけて相手に伝えなければいけないんだと思いました。また、相手が誤解を抱くことのないようにしようと思いました。先生の話を聞きして、スマホでゲームやLINE等をやっていると、生活リズムがいつの間にか崩れていくことも知りました。たまに宿題をやっているときに、飽きたらスマホでゲームをやってしまい、時計を見ると「も

う11時！」みたいな感じになって、寝るのが12時過ぎになることもあります。これからはけじめをつけて使いたいです。

### (3) 文化祭での意見文発表と意見交換

本校では、毎年文化祭プログラムの中に意見文発表が位置づけられ、学年2名の代表生徒による発表が行われる。

今年度、国語科と連携し、意見文の書き方の单元で、「メディアに関する社会問題」を題材にして、意見文を書く場合について生徒に指導してもらうようにした。

授業では、数値や新聞記事などの資料の扱いや段落構成、論旨のまとめ方などを生徒に考えさせた。

そうしたところ、「メディア」を題材とする意見文が例年より多く書かれ、その中から2名の生徒が文化祭で発表した。

#### ① 意見文の要旨

##### 「携帯電話は中学生に必要か」 1年女子

私は携帯電話を持っていません。しかし、私の周りでは持っている人が増えてきました。確かに便利な部分はありますが、家族との会話や本を読むことを減らしてまで携帯電話に時間を費やすことに疑問を感じます。中学生として使い方を工夫してみませんか。



◆ 意見文発表

##### 「便利な中でのリスク」 3年男子

皆さんの身近にある「インターネット」について書きました。便利ではありますが、リスクも大きいと感じています。インターネットを使っていく上で、どんなリスクがあるのか、どうしたら安全に使っていかれるのか考え直してみませんか。

#### ② 意見交換の様子

当日は、図書委員長・副委員長が進行を行い、全校生徒で意見文を聞いての意見交換を行った。

メディアに関する意見文に関して生徒からは、「携帯やスマホは正しく使うことが大切」「中学生なんだからやっぱり携帯はほしい」といった意見が出された。

それに対して多くの教職員からは「中学生にはまだ必要ない」という意見が出され、大いに会場が盛り上がった。



◆ 全校での意見交換

#### (4) メディアに関する全校集会の実施

II-1で述べたように、この研究を進めるにあたり、基本コンセプトを「生徒ともに創る・愉しむ」とした。

文化祭での意見文発表のあと、全校で意見を交換する時間を計画したこと、生徒同士が互いの意見を聞き合う中でより考え

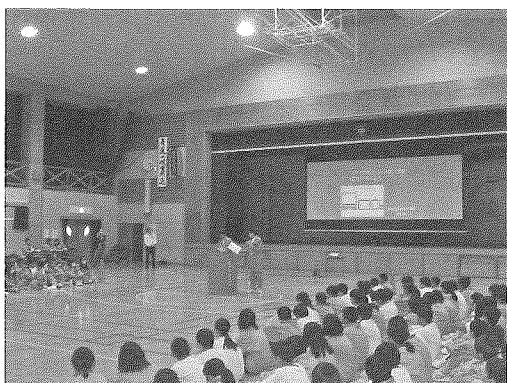
を深められるようするためである。

5月に行ったメディアに関するアンケート調査も、教師側で集計し、結果を生徒や保護者に配布するだけでは効果的な活用とはいえない。そこで、生徒会役員会を中心として「メディアに関する生徒集会」を開催し、生徒自身でメディアに関する問題について主体的に考えられるようにした。

開催日：平成28年10月13日（木）

意見交換した項目

- ① アンケート結果から考えること
- ② 佐久市全体でのルール作りについて
- ③ 学友会として取り組めそうなこと



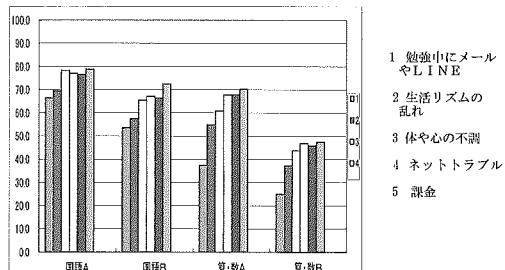
◆ 集会の様子

集会を開くにあたり、全校生徒には事前にアンケート結果等の資料を配付するとともに、意見交換する内容についてシートに自分の考えを記入してもらった。

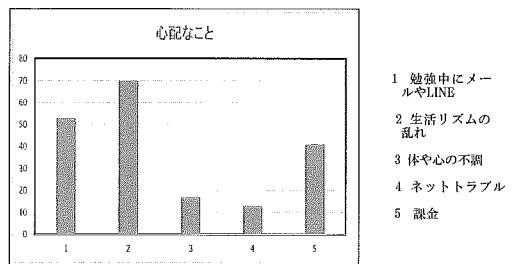
そして、書かれた内容や意見について、教師が事前にまとめ、当日司会を行った学友会長・副会長と、どのように全校に投げかけ、進めたらよいか、誰を指名するかなどの打合せを行っておくことで、スムーズな進行となり、たくさんの意見が出された。

#### 【集会で使った資料】

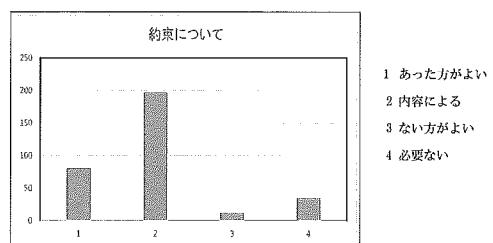
##### ◆ メディア機器に費やす時間と学力の関係



##### ◆ スマホを使っていて心配なこと



##### ◆ 佐久市全体でのルールについて



#### 【全校から出された主な意見】

- ① アンケート結果から考えること
  - ゲームやスマホでここまで学力が落ちるということに驚いた。最近(自分も)ゲームをしていて勉強をやるのを忘れてしまったことがあった。
  - 勉強中のラインなどは、相手の気持ちも考えてやった方がよいと思う。
  - メール（LINE）を夜遅くまでやっていて、宿題が終わらず寝る時間が遅くなるというのは、体にも悪いし、自分自身にとっても困ることだと思う。
  - 私もスマホを持っているので、勉強に影響すると思う。生活の中でも、急にメールが来て困ることがありました。
- ② 佐久市全体でのルールについて

- ・内容によってルールはあった方がよい。
- ・歩きスマホなど他の人に迷惑になることは禁止し、個人の問題はその人ごとに気をつけるようにすればよい。
- ・LINEやNETに人の悪口や名前など個人情報を書かないようにするなどの「約束」ならよいと思う。
- ・自分は1ヶ月の中に使わない日を決めて守っている。人それぞれなので自分に合ったルールでよいと思う。

### ③ 学友会として取り組めうこと

- ・何かルールを決めて取り組む。
- ・テスト期間中はスマホなどを使わないよう呼びかける。
- ・テスト前3日にならたら、勉強に関係あること以外で友達にメールを送らない。
- ・「メディア週間」などを作り、考え直す時間にする。

### (5) P T A 親子講演会の実施

本校では毎年人権教育月間の中で、PTA教養部が主催する「PTA人権講演会」を行っている。

本年度は、メディア社会における人権に関する講演会を企画し、当日は、学区内の小学校PTAにも呼びかけを行い、生徒・保護者約600名が聴講した。

期日：平成28年11月11日（金）

講師：清川輝基先生

（N P O 法人子どもとメディア代表理事）

演題：「スマホ」の時間、君は何を失うか～スマホ社会の落とし穴～

### 【講演の要旨】

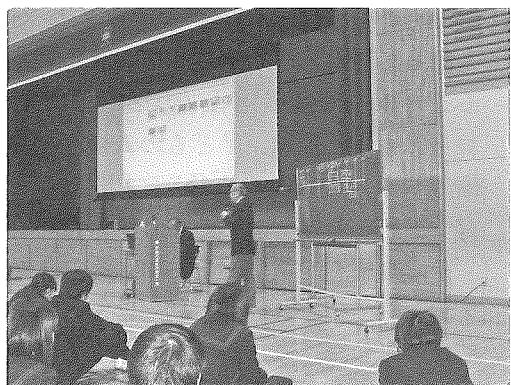
日本が批准している「子どもの権利条約」では、子どもの学習権、発達権が保障されている。しかし、近年普及がめざましい電子機器の利用によりこれらの権利が脅かされている。

例えば利用時間だけを見ても先進国の中

で日本が突出している。友だちや家族との時間を奪い、運動能力やコミュニケーション力に悪影響を与えている。

また、電子機器から発せられるブルーライトは視力の低下を招くともいわれている。海外では電子機器の使いすぎに対してCMを流し警鐘を鳴らしている国もある。

しかし、日本ではほぼ制限無しの状態となっており、様々な面で子どもたちの将来が大変心配である。



◆ 講演会の様子（清川先生）

### 【生徒・保護者の感想】

#### ① 生徒の感想

・私は今回の人権講演会を聞いて、「スマホ」の時間で人間はたくさんのものを失ってしまうことがわかりました。一番わかりやすかった例は海外のCMの動画です。印象的だったところは、母親がスマホをいじっているときには、自分の子どもが何をしているかわからず、スマホをやめると、子どもの姿が見えた、というところです。「スマホ」でたくさんのものが失われているとわかりました。

・僕はこの講演会の演題を初めて見たとき、意味がよくわかりませんでした。「スマホ」の何が悪いのか…、多くの人が使っ

ているものなのに…。しかし、実際に講演を聴いて、かなり身近な危険があることがわかりました。

現代社会で普及している電子メディアがどのようなものなのか知らないことばかりで、自分の使い方をあらためなければいけないと思いました。そして、リアルなコミュニケーションもしっかり行いたいと思います。

## ② 保護者の感想

・人権って何だろう？難しくてうまく答えることができなかったですが、先生のおっしゃった権利、子どもの人権、学ぶ権利（自分の成長のため）、人間として育つ権利、発達、よくわかりました。

そんな権利が電子機器への依存によって奪われているというお話を、とてもためになりました。家に帰って子どもと話をしてみたいと思います。

・メディア講演で有名な清川先生のお話を聞くことができ、本当にためになりました。

子どもたちは平日は4時間以上、土日ともなると8時間以上ゲームをし、常に親子でゲームに関して言い合い状態でした。学校での指導なのか、ある日数日ゲームをしない日があり、その数日は落ち着いて過ごせました。これをきっかけに少しずつゲームの時間は減りましたが、きょう清川先生から、失明する、脳によくないと話していただいたことは、きっと子どもの心に響いてくれたと思います。自分自身をコントロールできない大人にならないためにも、とても大事な講演会でした。

## (6) 生徒自らの企画によるメディア週間・ノーメディアデーの実施

11月に行った「メディアに関する全校集会」を受け、学友会役員の中に次なる企画を行いたいという意見が出された。

そこで、集会の中で意見交換した、「本校学友会として取り組めそうなこと」の中から、すぐに実施できそうな企画として「メディア週間」「ノーメディアデー」を実施することにした。

### 【学友会の取り組み】

#### ① 全校集会で学友会長から提案

---

学友会から全校の皆さんへの提案です。

前回の集会で多くの人から意見が出された「メディアについて考える機会」を全校でもちたいと思います。

11月14日（月）～11月20日（日）を「メディア週間」として、自分とメディア…「スクリーンタイム」について考える週間したいと思います。なぜこの時期かというと、11月21日（月）には期末テスト、そして3年生は総合テストがあるからです。

特にテスト前3日、11月18日・19日・20日は「ノーメディアデー」とし、できるだけ「スクリーンタイム」を減らして、学習や読書、家族との時間を大事にする三日間にしたいと思います。メール・ラインについては、テスト勉強をしている友だちのことを思い、お互いに気をつける日としたらどうでしょうか。

もちろんこれらは強制ではなく、努力目標です。ですが、大人からのルールや強制ではなく、私たち中学生の提案として、ぜひご協力をお願いします。

---

## ② 教室へのポスター掲示



## ③ 実施後の生徒の感想

- 「メディア週間」を全校で行っているということだけでメディアへの意識が変わりました。友だちとの会話の中にも、「メディア週間だねー」や「ノーメディアやらなくちゃ」といったものがあったので、気軽に取り組むことができたし、家に帰っても忘れる事はありませんでした。そして、意識してテレビを見る時間を減らしたら、勉強以外にもやれることがたくさんあると気づきました。
- 「メディア週間」があったことをきっかけに意識することができ、ノーメディアデーではメディアを使わなくても生活ができました。週間やルールを設けることによってメディアを使いすぎない生活が意識できているので、とてもよかったです。家族がテレビなどを見ているとついつられそうになることもあったので、家族の協力も必要だと思いました。また、メディアもアルコールなどと同じ

ように依存性が高そうなので、アルコールを少しずつやめていく治療法があるよう、メディア依存症の人も同じように治るルール（治療）があるといいです。

### ・「メリット」

見る番組が限られた。

勉強に集中できるようになった。

### ・「デメリット」

ニュースを見ない分、天気がわからない。

T Vの録画がいっぱいになる。

## III 成果と課題

### 1. 成 果

これまでメディアに関する指導というと、「時間を減らす」「約束を決める」など、個人の使い方を制限するための取り組みが多くなったように思う。今回「メディアと人権」を関連づけた支援を構想することで、生徒の中に相手を意識した気持ちが生まれてきたことは大きな成果である。

また、学友会を主体とする活動を支援することで、生徒同士の関わりや仲間意識、自分たちで物事を進める事のよさの実感など、学校目標を具現する姿を見る事ができた。

### 2. 課 題

アンケートにもある、休日8時間以上電子機器を使っているような、いわゆる依存性の高い生徒に対しては、外部機関との連携など、他のアプローチも必要である。

### [おわりに]

この研究の機会を与えてくださった「公益財団法人日本教育科学研究所」「佐久市教育委員会」をはじめ、関係諸機関の皆様に感謝申し上げます。 (教頭:宮下明浩)